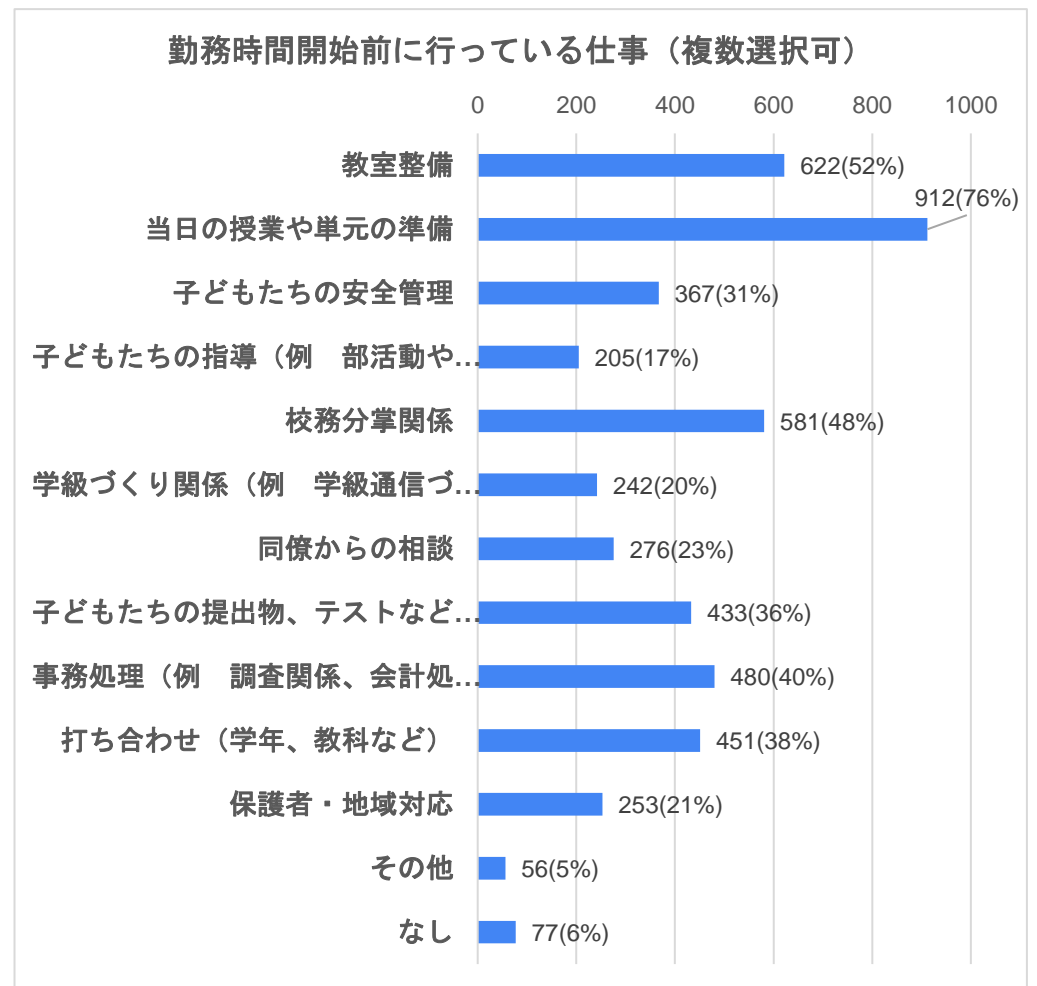
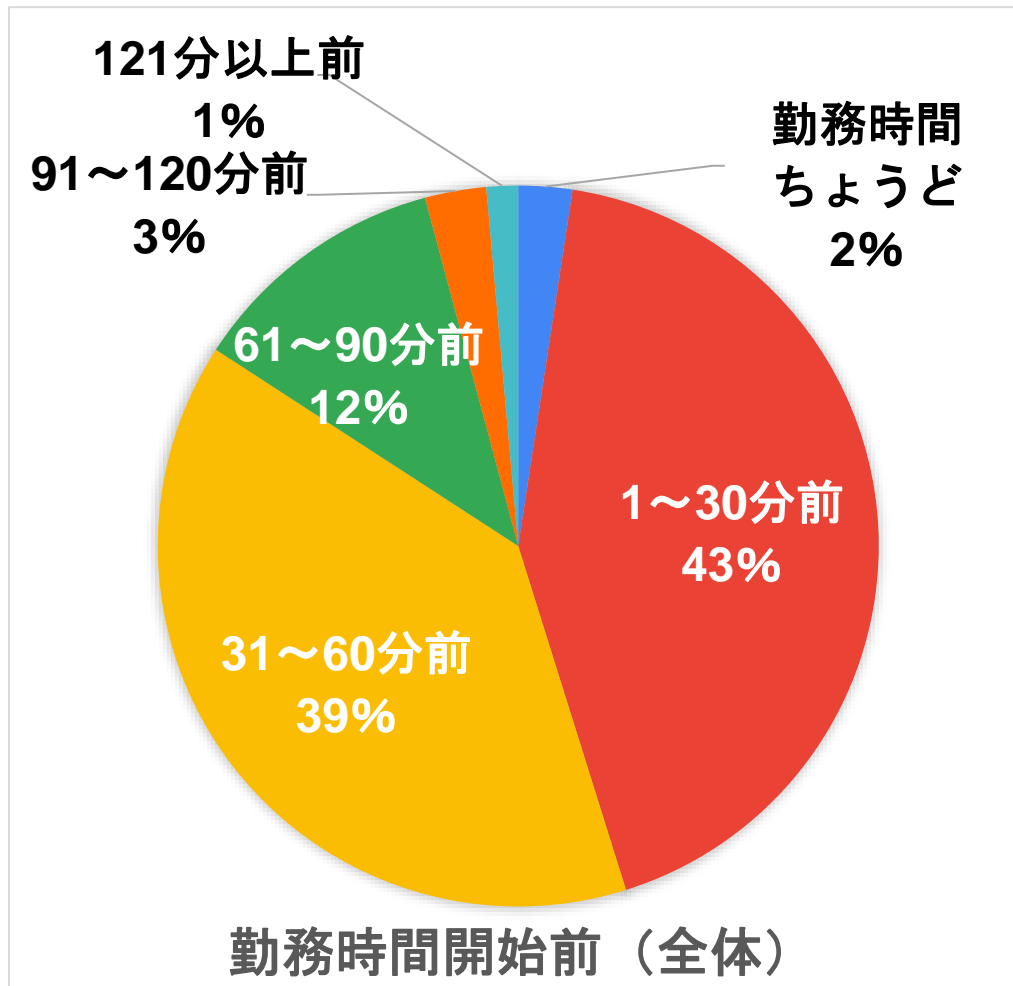


「時間外労働に関するアンケート」

調査期間 2025年4月9日～7月11日 回答：40都道府県 1200件

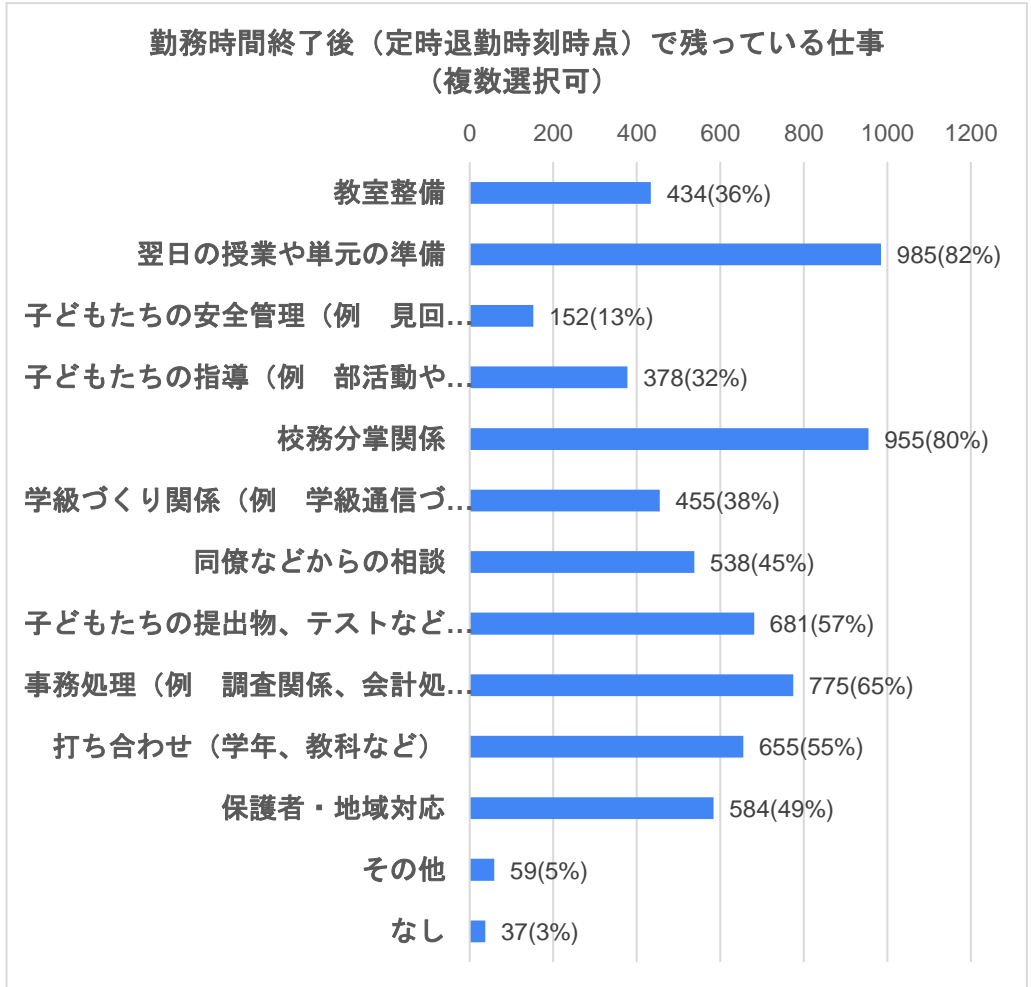
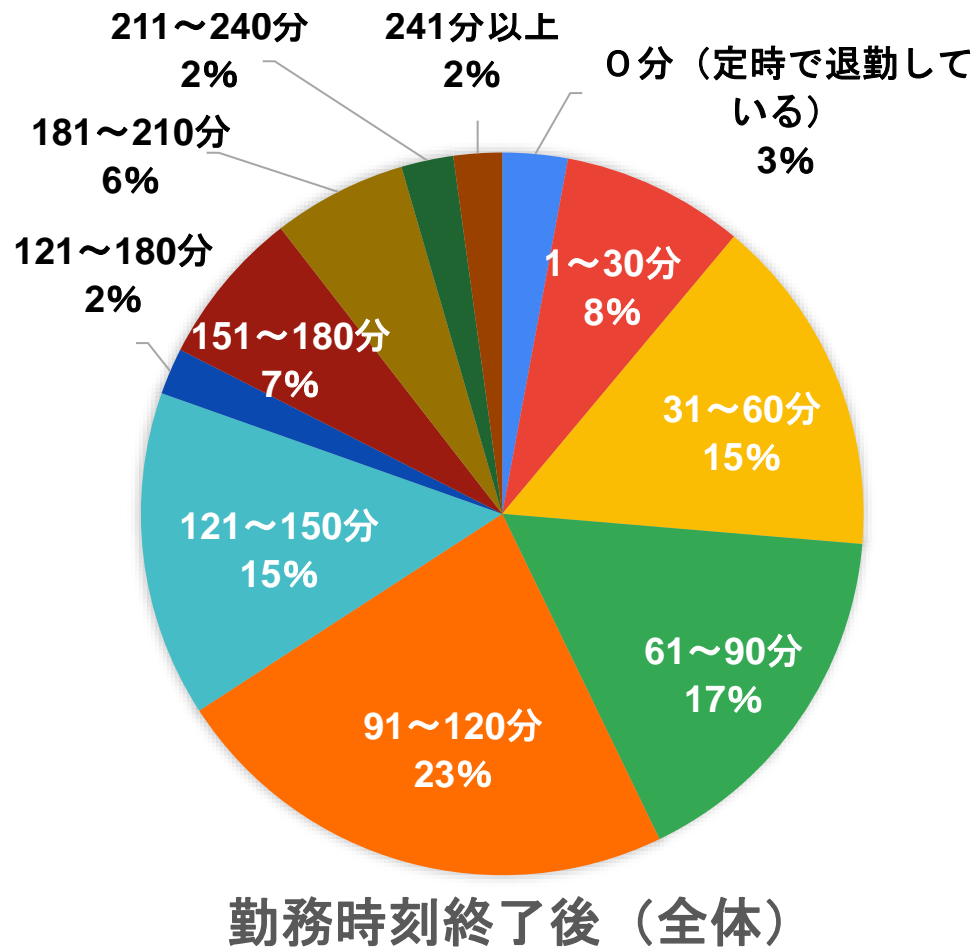
94%が朝の時間外労働をしている。



「時間外労働に関するアンケート」

調査期間 2025年4月9日～7月11日 回答：40都道府県 1200件

97%が定時退勤できず。過半数が校内で91分以上、1割が181分以上の時間外労働。



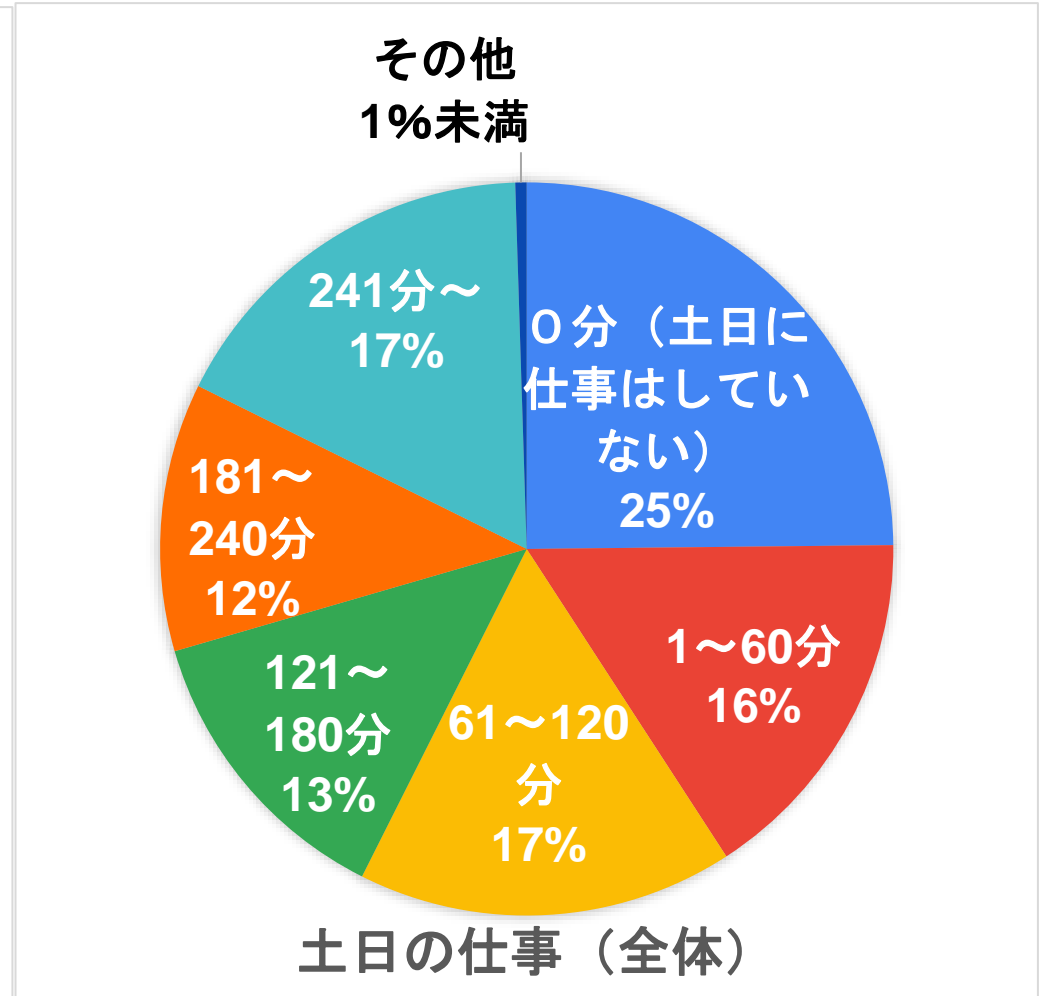
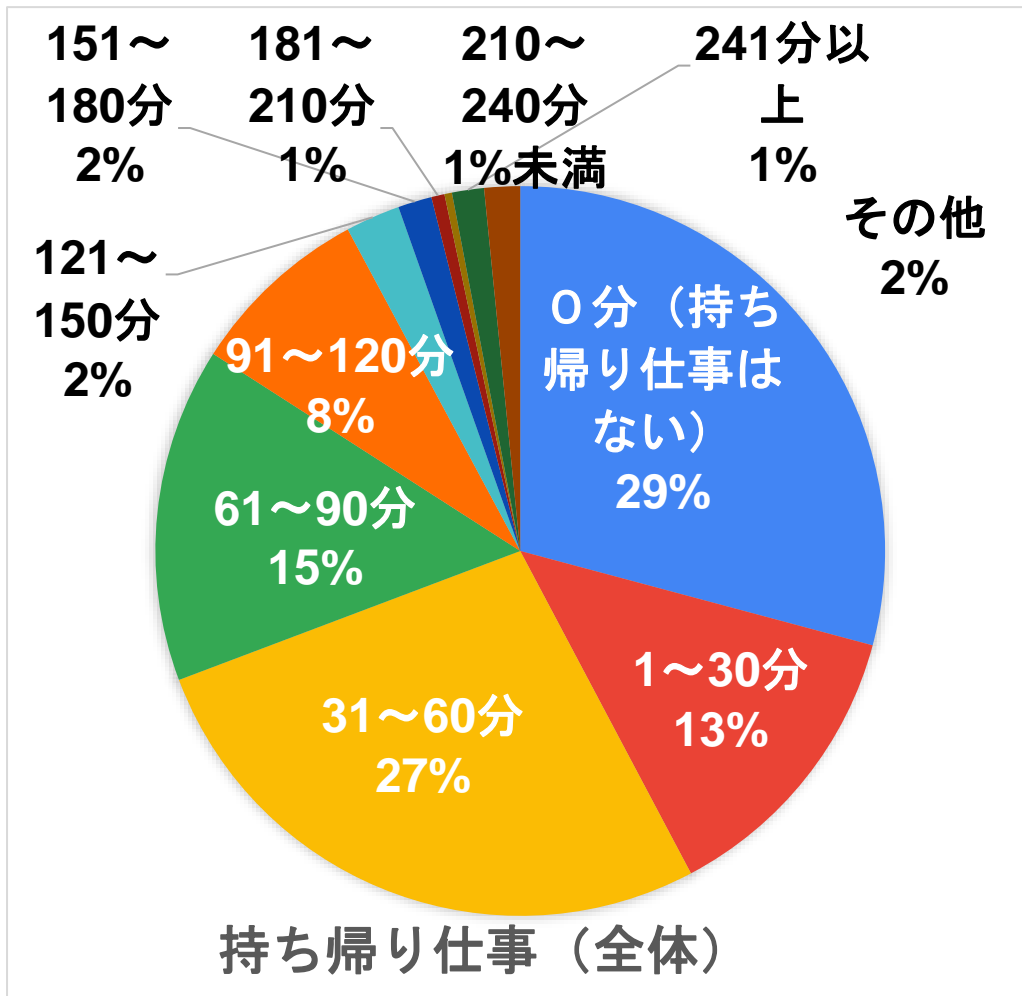
「時間外労働に関するアンケート」

調査期間 2025年4月9日～7月11日

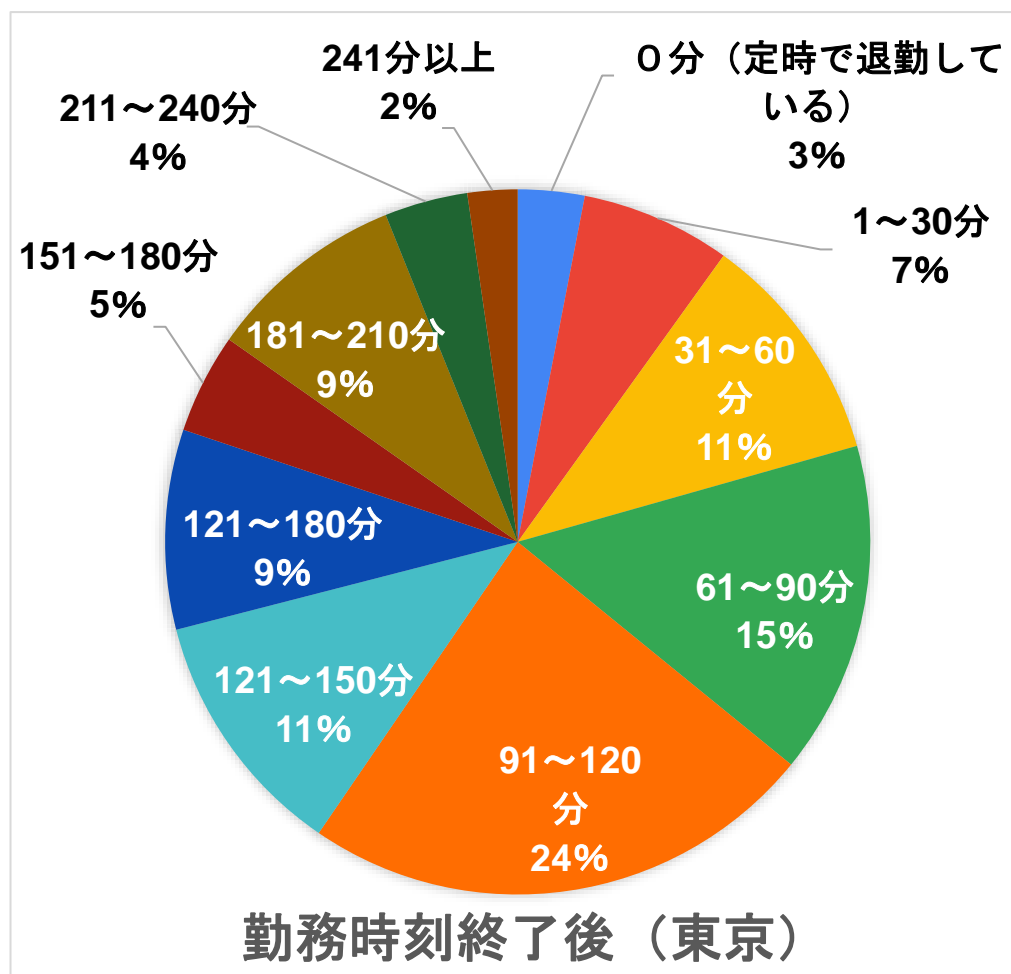
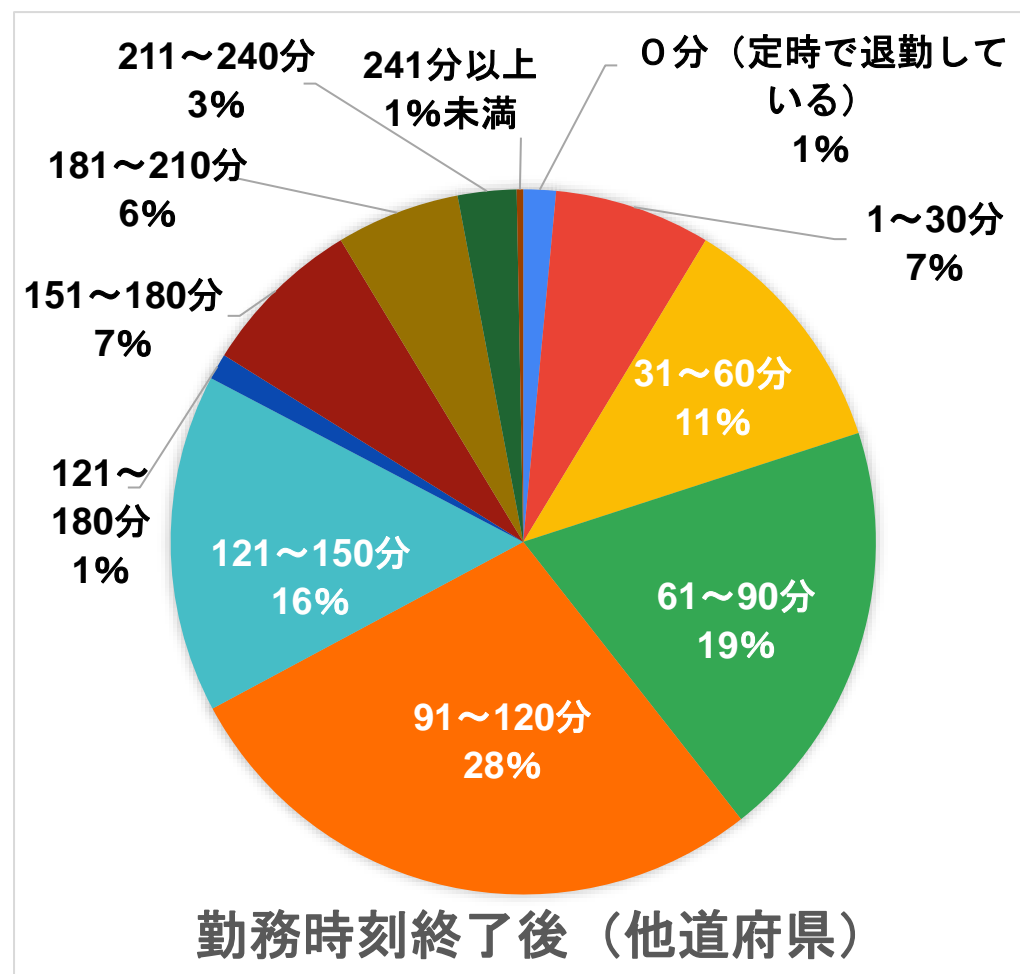
回答：40都道府県 1200件

約70%が持ち帰り仕事をしている。

4人に3人が土日に仕事をし、
最も多いのが241分以上と極めて深刻。

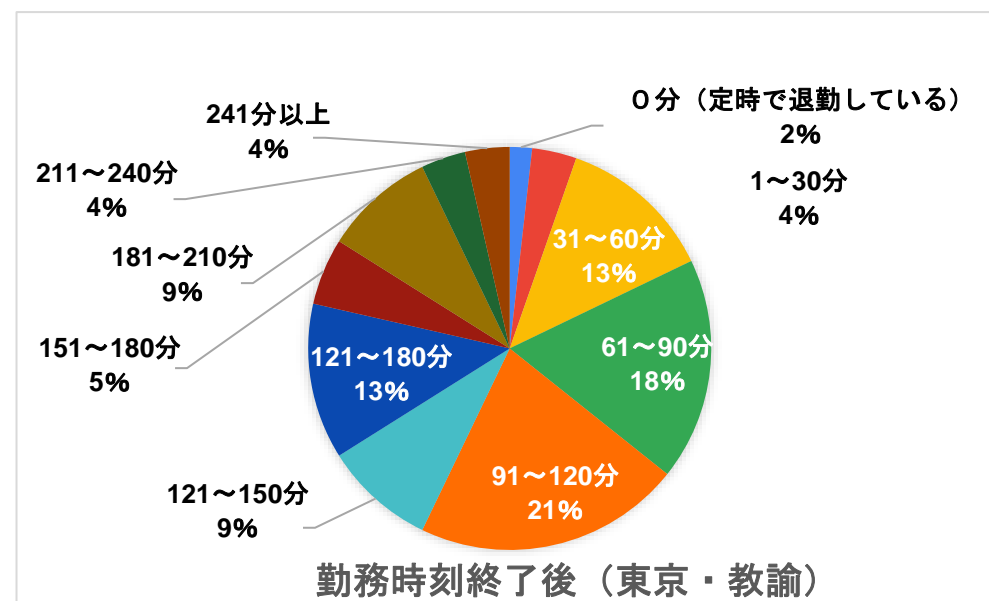
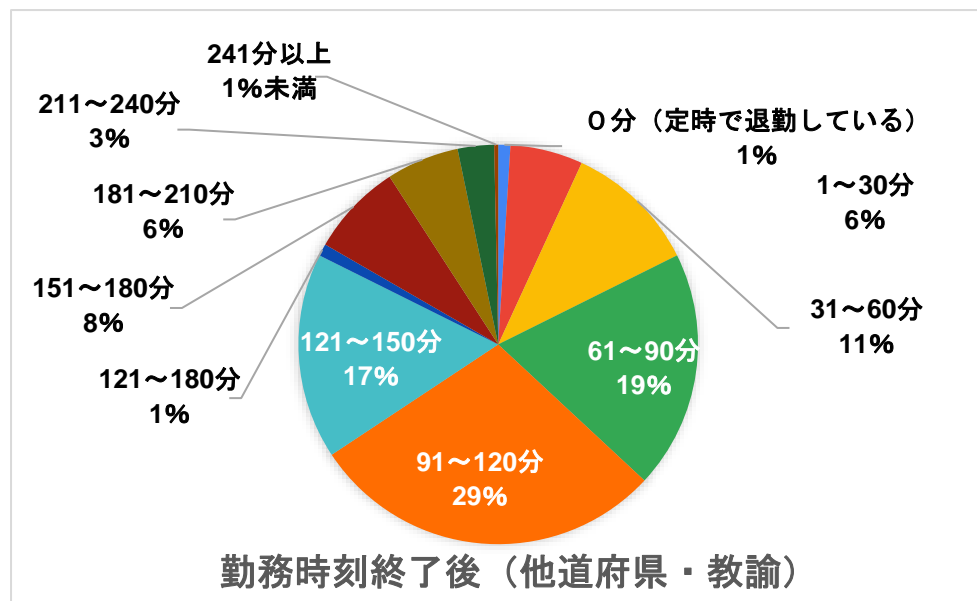


○東京都と他道府県の比較：小学校 勤務時間終了後



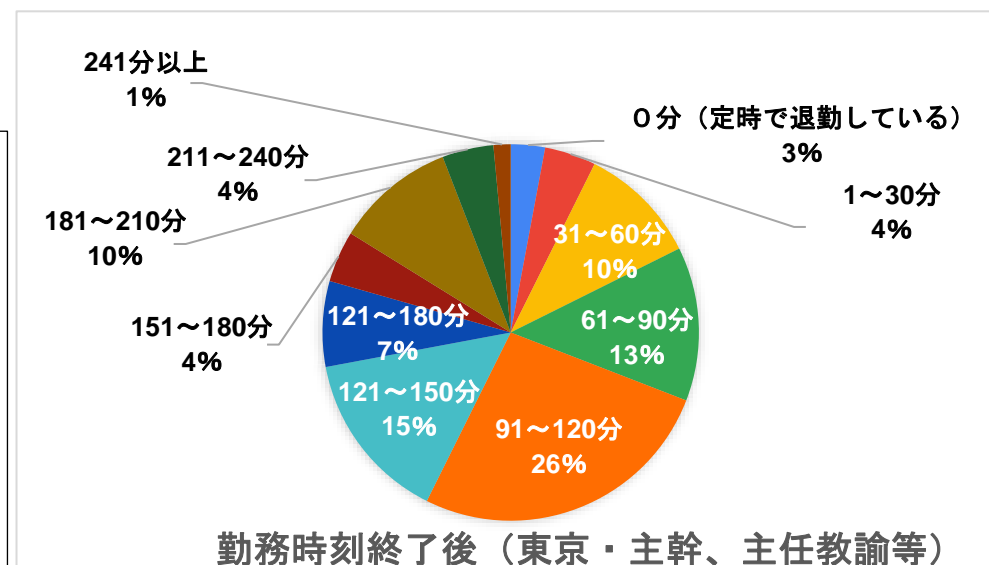
91分以上で、東京都の方が割合が多くなり、長時間化の傾向が見られる。121分以上で東京都は4割で、他道府県から約7%高くなっている。181分以上で比べると、東京都は15%に対して、他道府県は約9%に留まる。
いずれも深刻だが、東京都の方が、深刻さを増している。

○東京都と他道府県、職種の比較：小学校 勤務時間終了後

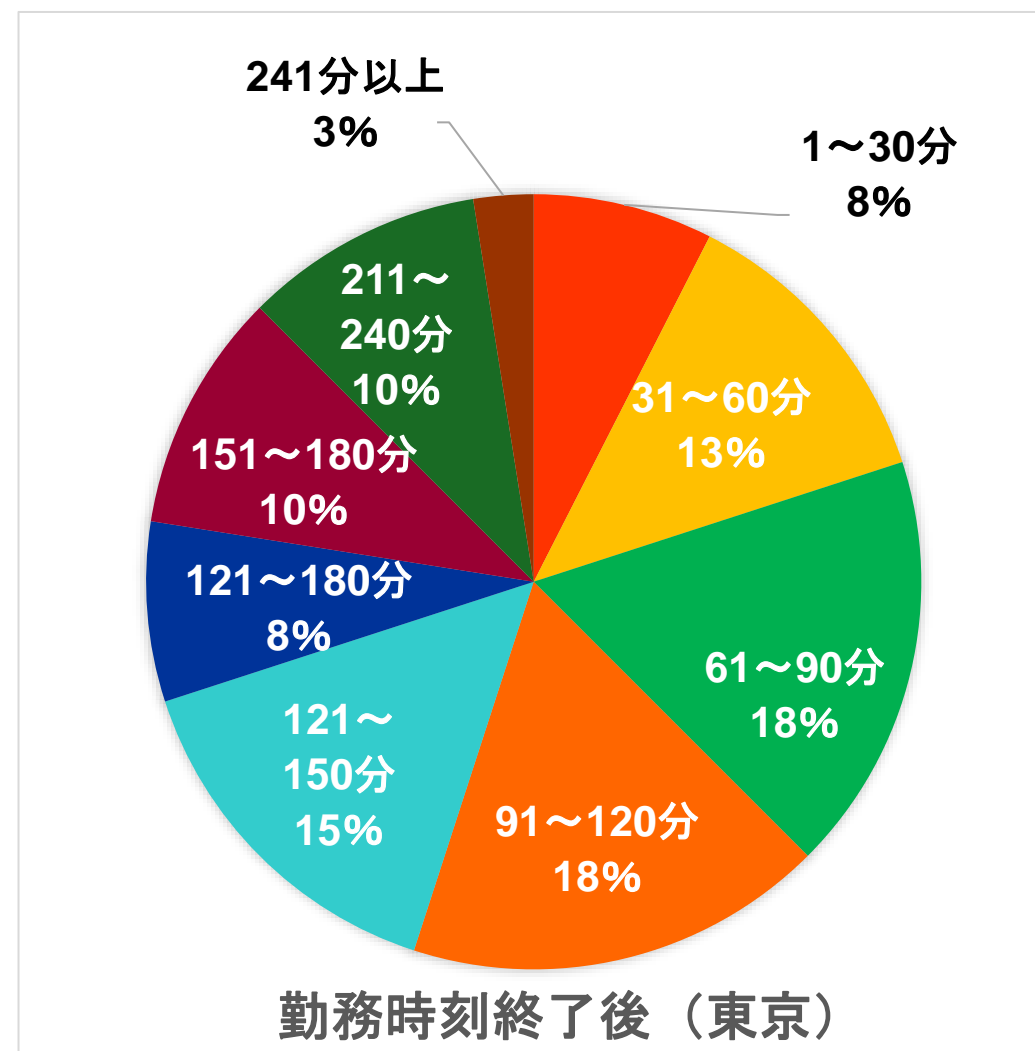
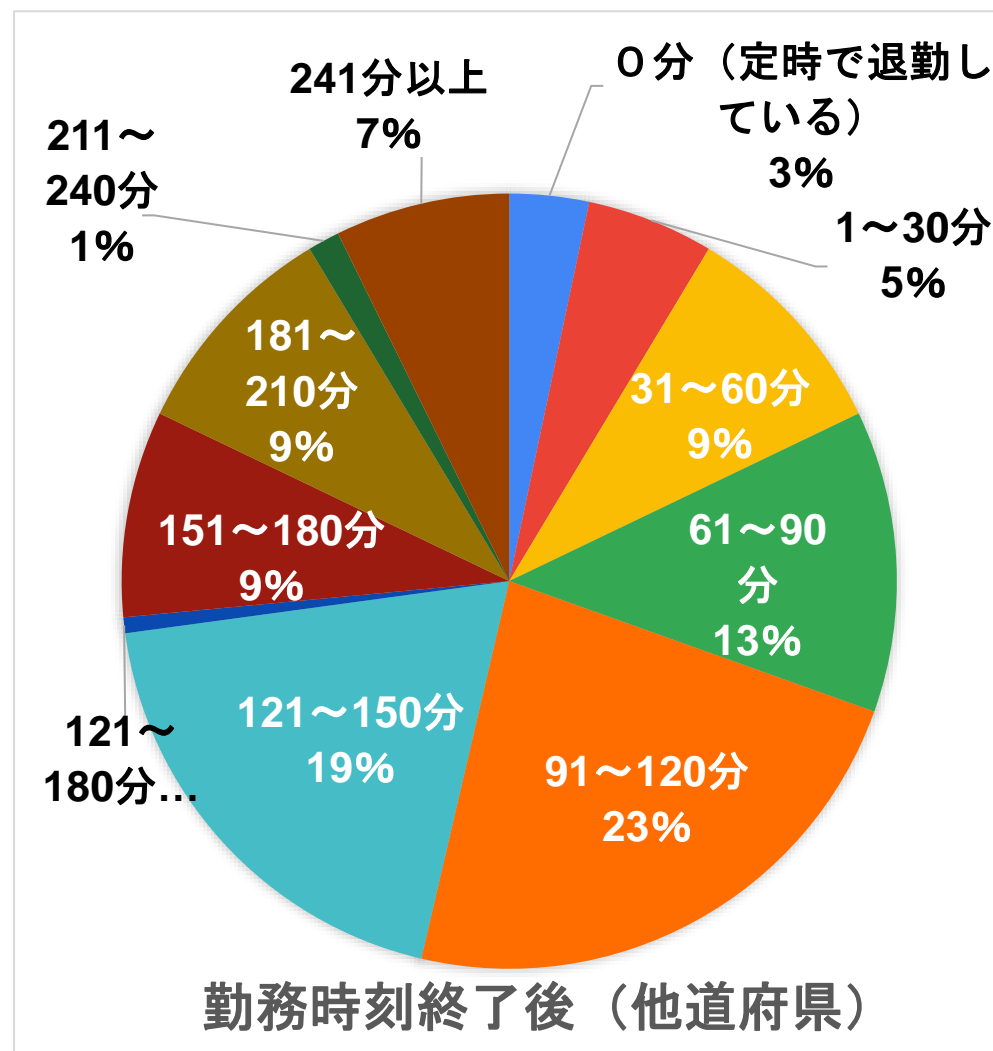


120 分以下で比べると、定時退勤時刻後の時間外労働がまだ短い傾向なのは、「他道府県の教諭」。「東京都の教諭」「東京都の主幹、主任教諭」の方が、割合を減らしている。

181 分以上では「他道府県の教諭」に対して、「東京都の教諭」が同じ教諭でも倍近く存在している。「東京都の主幹、主任教諭等」でも 15%見られ、効率化どころか、全くの逆効果と言える。



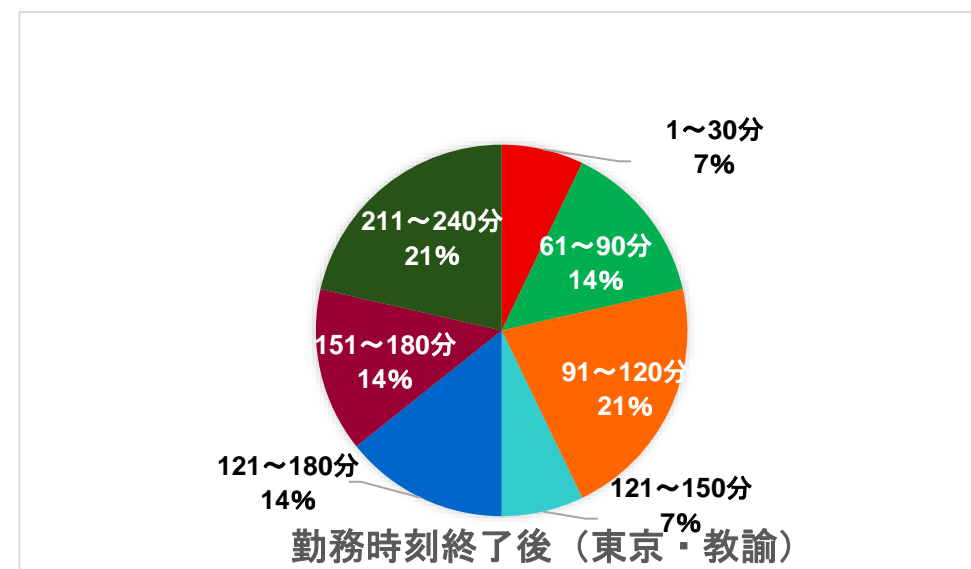
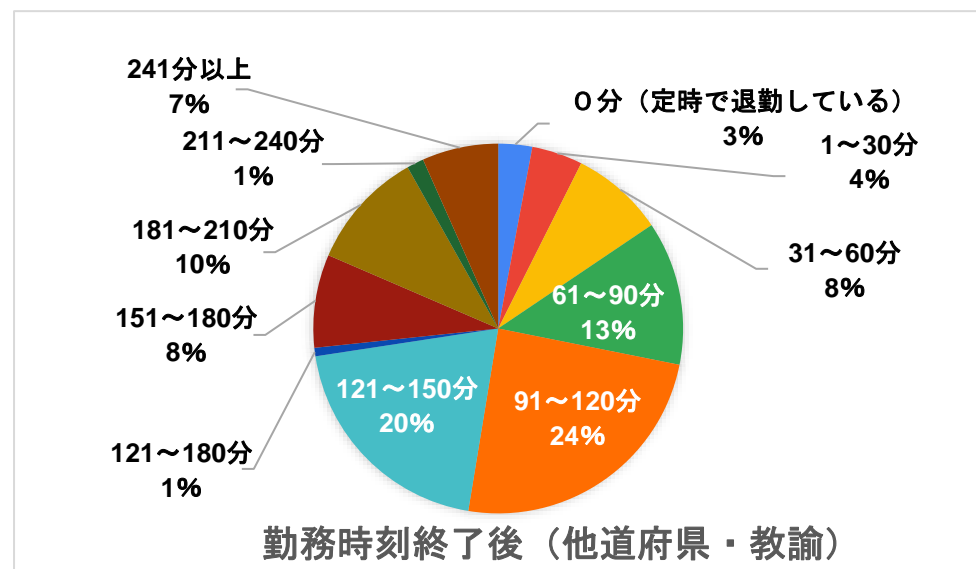
○東京都と他道府県の比較：中学校 勤務時間終了後



東京都にはそもそも定時退勤が存在していない。

特徴的なのは 211 分以上で、東京都で 13%、東京都以外で 8% である。

○東京都と他道府県、職種の比較：中学校 勤務時間終了後



120 分以内に退勤できる割合が「東京都の教諭」が最も少ない。

しかも 211 分以上で見ると、「東京都の教諭」が圧倒的に多い。職種の分化が最も進んだ「東京都の教諭」が、最も長時間労働に晒されているのは、構造的な問題を指摘せざるを得ない。

